！市民の和

フレッシュさん

このコーナーでは、まちのフレッシュさんをリレー方式で紹介します。一瀬さんは前回の坂本さんの紹介です。

一瀬（ひとせ）　裕志（ゆうじ）さん
（22歳・本府中町）

「仕事を始めて人間関係の大切さと難しさを実感しています」と話す一瀬さんは、高校卒業後、中能登町の鹿島興亜電工㈱に勤めて4年目を迎える。テレビや携帯電話などの電化製品には欠かせない、電気の流れを制御する抵抗器を作る仕事に携わる。

「最初は仕事が難しくて自分にはできないんじゃないかと思ったけど、だんだんわかるようになってきました」とやりがいも感じている。

「自分は面倒くさがり」とはいうものの、高校卒業以来運動不足だった反省から、最近では週に2～3回スポーツジムへと通い、体力づくりにも励む。

ふるさと七尾を「落ち着ける場所」と例えるとおり、都会へのあこがれはなく、「これからもずっとここで暮らしたい」と話した。

出身地　**東京都あきる野市**

このコーナーでは、県外から市内へ転入された方の声を紹介します。

思えば遠くへ来たもんだ

大星（おおほし）　雅司（まさし）さん
（38歳・生駒町）

奥さんとの縁で東京から七尾市に来て6年目。不便ではという質問に、「あきる野市は田舎ですよ。人口もあまり変わらず、自然の風景は七尾と同じ。違うのは、海がないことかな」と意外な答え。いつの間にか七尾の人と話をしているかのように思えた。

大星さんの職業は土地家屋調査士。「仕事柄、七尾のことを知らないとお客さんとの信頼関係がなりたたない。七尾に来て、七尾を知ることから努力した。七尾を知ると素晴らしいものがたくさんある。温泉、食材、祭りなど素晴しいものがあるのに、七尾の人は内向的な性格からかあまりPRをしない。遠方から来る友人などを案内するとみんなが絶賛して帰る。もっとPRすればいいのに」と話す。

そのとおりかもしれない。多くを語らずが魅力と考える能登の人。これからは行政や企業だけではなく、いち個人が故郷にある宝をPRして、地域活性化につなげる努力が必要ではないか。

七尾のためにという想いで努める大星さんに頭が下がる思いがした。

市長コラム　等伯に学ぶ

七尾市長
武元文平

1月22日から日本経済新聞で、連載小説「等伯」が始まった。歴史小説の気鋭の作家阿部龍太郎氏はどんな長谷川等伯を書くのか毎日が楽しみである。この小説によって等伯についての新しい発見や魅力が出てくることは間違いなく、七尾にとってこのうえなくうれしいことである。

「いい絵を描きたい」との強い思いで田舎の七尾から京へと上り、絵師として認められ、ついには天下人豊臣秀吉の御用絵師となる。大変な努力と苦労、苦悩を乗り越えて描かれた作品は４００年の時を超えて現在のわれわれにも大きな感動を与える。

水墨画の最高傑作といわれる、国宝「松林図屏風」の松や空間は間違いなく能登の風景だ。絵の前に立つと、力強い松の木とかすんだ空間の中に何を表現しようとしたのかと考えてしまう。等伯はあの絵の中に、目には見えないが何か最も本質的で大事なものを描こうとしたのではないだろうか。

能登の風土やあつい信仰心、七尾城下の畠山文化などが等伯の心の奥にあり、その上に京都の文化精神が加わり新しい作品が生まれたものと思われる。いや、能登七尾で育ったからこそ等伯が時代を超えて人間の本質に迫り訴える作品を描くことが出来たのではないかと思う。

能登の人は、冬の雪や荒天の下で長い間耐える。しかも行き止まりの半島の中で自然と向き合い、自分や人間関係を見つめ、ときには争い悩みながら、ともに生きるための有り様を探し続けてきた。そんな中で、「最後は形や飾り物ではない本物だけが残る」ことを知ったのではないか。等伯はまさにそんな能登に育ったからこそ時代を超えて評価される、飾り物ではない本物の絵を描くことができたのではないか。

世界的パティシエの辻口博啓氏も同じ能登七尾の人。大きな夢に向かって、寝食を忘れ、誰にもできない努力を重ねて世界一になった。彼も能登の自然に学び、常に本物・本質を求めていまだに新しいことに挑戦を続けている。

能登七尾は素晴らしい人材が育つところ。等伯に学び、等伯に続く人材を育てようではありませんか。

市長へのメール「前略、市長さん」(http://www.city.nanao.lg.jp/shicho/)では、市民のみなさんから市長へのご意見・ご質問などをお待ちしています。

市長談話室　市政への思いやアイデアをお聞かせください！

①まちづくりに関すること、②生活環境に関することなど前向きなアイデアをお聞かせください。(個人・グループどちらでも可。１組30分以内)

●3月16日(水) 15：00～17：00
会場：七尾市役所　102会議室
※申し込みは１週間前まで(公務により中止になる場合あり)

問・申 市民男女協働課　☎53-8633

広がれ

このコーナーでは、市内のクラブ活動やサークル活動などを紹介します。

楽しい輪

NPO法人 ぽっかぽか

石川地域づくり表彰奨励賞受賞

最近、子育ての分野で話題となっている『NPO法人ぽっかぽか』。

平成18年7月に結成し、会員24人で活動している。子育てなどの福祉事業は行政や民間企業が行うのが当たり前と思われる中、『NPO法人ぽっかぽか』はボランティアで、なかなか行政などが取り組むことができない事業を展開している。

代表的なのは『おもちゃ図書館』。おもちゃで遊ぶ楽しさを味わってほしいと子育て真っ最中の親におもちゃを無料で貸し出している。また、貸すばかりではなく、家庭で壊れたおもちゃも修理してくれる。この事業に続き、独自で親子の交流体験活動を企画したり、障害児の療育指導支援や子ども用品に関するリサイクル事業もしたりしている。子育ての経験がある人や保育士、今まで勤めた経験などを生かして、会員のアイデアと人脈で今までにないサービスを提供している。『次は何を』と前向きに取り組むこの団体に注目したい。

会員を募集しています。

子育て中の親や子どもたちのために活動してみませんか？詳細は電話にて！

問 NPO法人ぽっかぽか ☎53-1046